

7. 委員の連携と役割分担

6. に記載した取組内容について、取組方針ごとに表にまとめました。取り組みの実施主体を◎、取り組みを実施するにあたり連携・協力が期待される主体を○で示しています。協議会委員が情報共有と意見交換を密にしながら、それぞれの取り組みを主体的に実施していきます。

◎と○がついていない主体でもすでに取り組みを実施していたり、連携・協力している可能性が考えられます。今後さらに◎と○を増やしていけるように、新たな取り組みを積極的に実施していくことが重要になります。

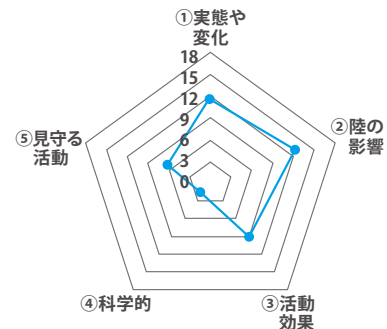
取組分野 (主な部会)	取組方針	漁業関係	観光関係	NPO・NGO	その他個人・団体	専門家・調査業者	学識・研究者	地方公共団体	国の機関
1. サンゴ礁の 今を調べる =「知る」 (学術調査)	①サンゴ礁の実態や変化を知る			◎		◎	◎		◎
	②サンゴ礁への陸からの影響を知る				◎	◎	◎	◎	◎
	③サンゴ礁を守る活動の効果を知る					◎	◎	◎	◎
	④わかったことを結びつけて科学的に知る				◎				◎
	⑤サンゴ礁を皆で見守る			◎		◎			◎
2. 豊かな サンゴ礁の姿を 取り戻す =「守る」 (海域・陸域 対策)	①サンゴ礁の海を汚さない			◎				◎	◎
	②サンゴが生息できる環境を取り戻す	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
	③サンゴ礁への負荷を減らす観光を進める		◎	◎		◎		◎	◎
	④サンゴ礁の回復を助ける	◎	○			◎	◎	○	◎
	⑤一人ひとりが行動し皆で守る体制をつくる			◎		○	○	○	◎
3. サンゴ礁の 恵みや大切さを 伝える =「伝える」 (普及啓発・ 適正利用)	①サンゴ礁の恵みを伝える			◎		◎		◎	◎
	②「サンゴ礁の現状や守る取り組み」を皆に伝える			◎	◎	◎		◎	◎
	③未来につなぐため八重山に住む子どもたちに伝える	○	◎	◎	◎	◎		◎	◎
	④サンゴ礁を守るための活動の場をつくる			◎				○	○
	⑤サンゴ礁を守る活動を地域づくりへと広げる			◎		◎			◎

また、該当する取組方針ごとに取り組み数を整理してみました。

取組分野1. サンゴ礁の今を調べる

サンゴ礁の今を知る基本として<①サンゴ礁の実態や変化を知る>とともに、<②サンゴ礁への陸からの影響を知る>ことや、様々な対策の実施や効果の評価につながる<③サンゴ礁を守る活動の効果を知る>ことにも力を入れていきます。

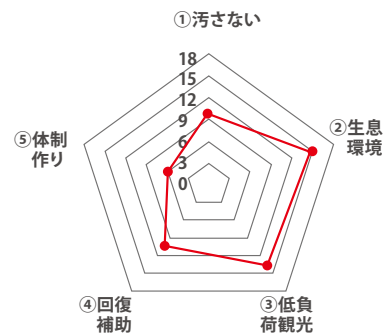
また、取り組み数は少ないですが、モニタリング結果を有効活用し、陸域・海域を通じた総合的な取組対策を促進するために<④わかったことに結びつけて科学的に知る>こと、<⑤サンゴ礁を皆で見守る>ことが重要です。



取組分野2. 豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す

<①サンゴ礁の海を汚さない>ことや、<②サンゴが生息できる環境を取り戻す>ため、サンゴ礁の回復力を高めるような環境づくりに努めるとともに、<③サンゴ礁への負荷を減らす観光を進める>ことにも力を入れていきます。

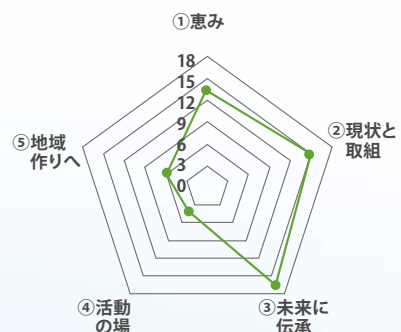
また、取り組み数は少ないですが、2016年の大規模白化の影響を受けている状況から<④サンゴ礁の回復を助ける>ことや、関係者が連携し、<⑤一人ひとりが行動し皆で守る体制をつくる>ことが重要です。



取組分野3. サンゴ礁の恵みや大切さを伝える

<①サンゴ礁の恵みを伝える>ことで、サンゴ礁が地域の宝であることを伝えます。また、イベントなどを通じて<②「サンゴ礁の現状や守る取り組み」を皆に伝える>とともに、<③未来につなぐため八重山に住む子どもたちに伝える>ため学校などと連携したサンゴ学習にも力を入れていきます。

また、取り組み数は少ないですが、多くの市民や観光客にサンゴを守る機会を提供するために<④サンゴ礁を守るための活動の場をつくる>ほか、持続可能な豊かな地域社会づくりを目指し<⑤サンゴ礁を守る活動を地域づくりへと広げる>ことも重要です。



このように整理してみると、積極的に実施される取組が明らかになると同時に、該当する取組が少ない取組方針があることも分かります。これらについては、今後、関係する委員を中心に、必要な取組の実施を検討していくこととします。

今後の取組展開に向けた検討課題

この行動計画の5年間、6.に記載した取り組みを進めていきますが、石西礁湖の豊かなサンゴ礁を取り戻すためには、サンゴ礁の状況を踏まえ取り組んでいかなければならない様々な検討課題があります。

協議会委員から示されたそれらの検討課題について、次のとおり、3つの取組分野ごとに示します。これらについて、ワーキンググループなどの議論の場を必要に応じ個別に設けながら、協議会の部会において取り組みの実施や課題の解決に向けた検討を進めていきます。

取組分野1. サンゴ礁の今を調べる

- 鉛直方向の水温データや海流データなど、サンゴの生息条件に関わるより詳細なモニタリングの実施
- 陸域からの農薬、日焼け止めクリームなどの化学物質による影響の解明
- サンゴ礁に影響を及ぼす攪乱要因のリスク評価のための閾値の設定
- 水平透明度の調査など、市民が参加できるモニタリングの実施
- サンゴ礁生態系の調査だけでなく、サンゴ礁を取り巻く社会環境の現状や変化も含めた上での石西礁湖の総合的な解析

取組分野2. 豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す

- サンゴ礁のモニタリング結果を踏まえた赤土流出等の陸域負荷対策の連携強化
- サンゴの再生手法に関するより適切な技術手法の開発
- サンゴの生息状況に対するバクテリアなどによる影響要因の解明
- 石西礁湖における利用実態の把握
- 石西礁湖における持続可能な利用のあり方の検討

取組分野3. サンゴ礁の恵みや大切さを伝える

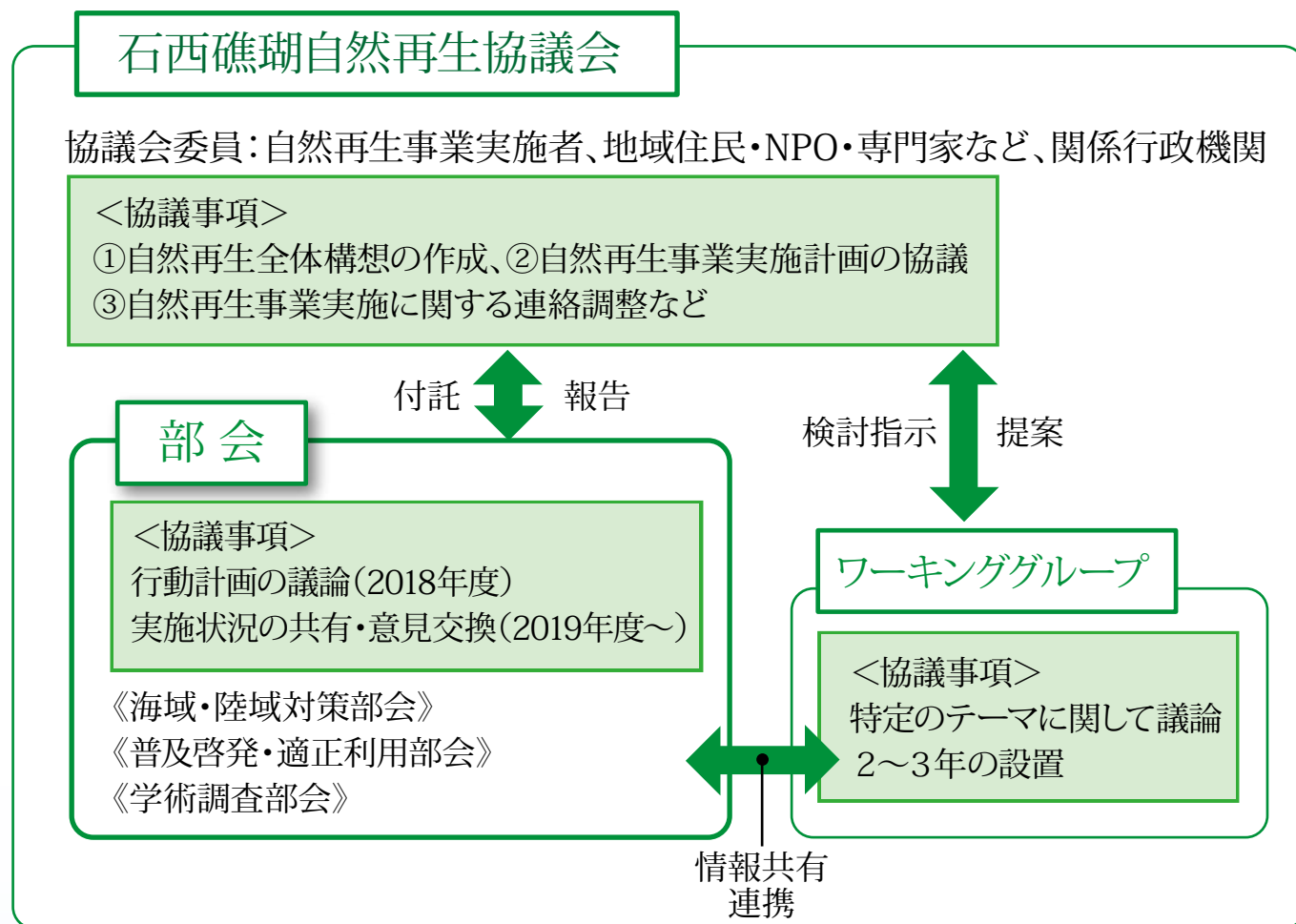
- サンゴ礁の恵みや大切さを体系的に伝えるための拠点施設の検討
- 八重山のすべての小中学生に対するサンゴ礁学習の機会確保
- 活動を継続していくための人材・費用不足の解消
- 普及啓発の効果に関する即時的な評価が得られにくいことから、活動を継続させるための協議会の体制や活動のあり方
- 普及啓発から行動につながるような内容やテーマの設定、対象に応じた段階的な普及啓発の内容や手法の検討

また、サンゴ礁や海洋環境を取り巻く様々な動きとして、国際的には、持続可能な開発目標(SDGs)、気候変動抑制に関するパリ協定、海洋プラスチックごみ対策などがあります。さらに、国内では「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020」に基づき様々な取り組みが行われているとともに、国際的な課題の海洋プラスチックごみ対策についても新たな取り組みが展開されています。これらの動きを踏まえながら、最新の研究により得られた知見などに基づき、新たに取り組むべき課題が生じれば、協議会において意見交換しながら対策の実施を検討していきます。

協議会の体制

短期目標達成期間の実施状況の取りまとめにおいて、協議会の体制や進め方に関する意見が出されたことを受けて、『行動計画2019-2023』の検討開始にあわせて、2018年7月に協議会の体制を見直すことにしました。

それまでは協議会の下に1つの部会と4つのワーキンググループ(WG)がありましたが、これらを整理し、3つの部会に位置付けることにしました。見直した体制は下図のとおりです。



2006年2月の石西礁湖自然再生協議会発足時は89個人・団体が参加していました。

現在では122個人・団体が委員として参加しています(2019年6月)。

取り組みによっては協議会に参加していない関係者の連携・協力が必要な場合があります。それらの関係者に対して、取り組みへの理解・協力を求め、協議会への参加を促していきます。

区分	委員数
個人	41名
団体・法人	45団体
地方公共団体	27団体
国の機関	9団体
計	122個人・団体